

どうすれば大人は子どもの気持ちを正しく推測できるのか

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: KIKUNO, Haruo メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3894

BY-NC-ND

どうすれば大人は子どもの気持ちを正しく推測できるのか

児童学部 児童学科 菊野 春雄

母親は子どもの気持ちをどのように推測するのであろうか。また、母親は自分の子どもの気持ちを容易に見抜けるのであろうか。その際に、母親は心の理論(Theory of Mind)を使ってどのようにして、子どもの心を推測するのであろうか。子どもの気持ちを推測することは、心の理論にも個人差があり、大人であっても大変困難であることはいくつかの研究で報告されている。心の理論に個人差があることを示唆する研究として、きょうだい数や養育の仕方についての研究がある。たとえば、きょうだい数や養育の仕方が、心の理論の発達に影響することが報告されている(許、1997)。また、文化差も影響することが報告されている。例えば、日本の子どもは、欧米の子どもに比べて、心の理論の獲得は1年から2年遅れることが報告されている(Wellman, Cross & Watson, 2001)。さらにリーダーシップの差も心の理論の個人差によることが示唆されている(Keating & Heltzman, 1994)。

そこで、本研究では、母親が自分の子どもの気持ちをどのように推測するのかを明らかにしたい。特に、母親の母性愛が子どもの気持ちの認識に影響するのかどうかを明らかにしたい。また、気持ちを推測対象の子どもが男児であるか女児であるかによって、子どもの気持ちを認識するのに差が見られるのかを明らかにしたい。

方法

参加者：本研究の参加者は、3歳から5歳の幼児を持つ母親53名であった。**研究計画**：本研究は、 $2 \times 2 \times 5$ の3要因の計画で行った。第1の要因は母親の母性愛が高いか低いかのどちらかであった。第2の要因は子どもの性別で、参加者の子どもが男児か女児であるかであった。第3の要因は、母親が嘘を認識する際の顔の部位であり、目、鼻、口、眉毛、耳の5つの部位であった。これらの内、母親の母性と子どもの性別の要因は参加者間変数であり、顔の部位の要因は参加者内変数であった。**手続き**：参加者に母性愛テストと子どもの行動認識テストを実施した。母性愛テストでは、30項目の母性愛についての質問紙であった。また、子どもの行動認識テストは、子どもが嘘をついたときに顔のそれぞれの部位の変化を手掛かりにどのように認識するのかを評定する項目であった。

結果と考察

行動認識テストでの評定値を変数として、2(母性愛) \times 2(子どもの性別) \times 5(顔の部位)の3要因の分散分析を実施した。その結果、母親が子どものどの部分をみて子どもの気持ちを推論するのかについて検討した。分散分析の結果、部位の主効果が有意であった。すなわち、目と口の部位での反応が、鼻と耳の部位よりも、気持ちを推測する手掛かりとしていることが有意であった。さらに、子どもの性別 \times 母性 \times 顔の部位の交互作用が有意であった。単純効果の結果、鼻や耳については、母親の母性の高低や子どもの性別に有意な差がみられなかった。しかし、目については、男児の場合、母親の母性の高低に有意な差は見られなかった。しかし、女児の場合、母性の高い母親の方が母性の低い母親よりも目を心の理解の手掛かりにすることが示された。また、口については、男児の場合、母性の高い母親より母性の低い母親の方が口を手掛かりとして子どもの心の状態を推測する傾向が高いことが認められた。しかし、女児の場合、母性の低い母親より母性の高い母親の方が口を手掛かりとして子どもの心の状態を推測する傾向が高いことが認められた。さらに、眉毛については、男児・女児とも、母性の高い母親より母性の低い母親の方が口を手掛かりとして子どもの心の状態を推測する傾向が高いことが認められた。なお、その他の主効果および交互作用は有意でなかった。

本研究では、目と口の部位での反応が、鼻と耳の部位よりも手掛かりとしているとの結果が得られた。この結果は、従来の研究結果と同じで、母親は鼻や耳よりも目や口を手掛かりとして、子どもの心の状態を推測することが示唆された。すなわち、母親は、鼻や耳のように動かない部位よりも、口や目のように動きが目立つ部位を手掛かりとして、子どもの心を認識しようとしていることが仮定される。また、目、口、眉毛を子どもの心の推測をする際に、母親の母性と子どもの性別が交互作用的に影響していることが認められた。このことは、子どもの性別によって、心の認識のための手掛かりが異なることを示している。母親と子どもの性別が同じ女児の場合は、自分の心の状態をシュミレーションして推測できるが、自分と異なる男児場合は、自分の心の状態をシュミレーションして推測することが困難な場合も見られることが考えられる。